

人権教育だより

第81号

発行 長野県教育委員会
編集 教学指導課心の支援室
人権支援係

発行人 永原 経明
長野市大字南長野字幅下692-2
電話 026-235-7450
FAX 026-235-7495

特集 文部科学省人権教育研究指定校 2年間の取組
人権意識の高揚を目指すポスター及び作文の審査結果

平成25・26年度文部科学省人権教育研究指定校



地域や関係諸機関との連携・協力の実践



—小川村立小川小学校・中学校の取組—

○人権教育にかかわる取組の全体概要

小川村の現状

- ・北アルプスを望む美しい村・子どもに対する期待と愛情のある村
- ・少子高齢化が進む村・子ども同士の間関係が固定化しがちな一村一校の村



- ・子どもとの関わりを望む村民、とりわけ高齢者の存在
- ・人権意識を高められる多くの地域素材の存在
- ・子ども同士の間関係で、より深く、より広くしたいという大きな願い
- ・課題に真剣に向き合い、行動できる子どもたちの存在



- ・小川村の将来を担う子どもたちを育てる指針『小川村教育基本方針』を策定

小川村教育基本方針

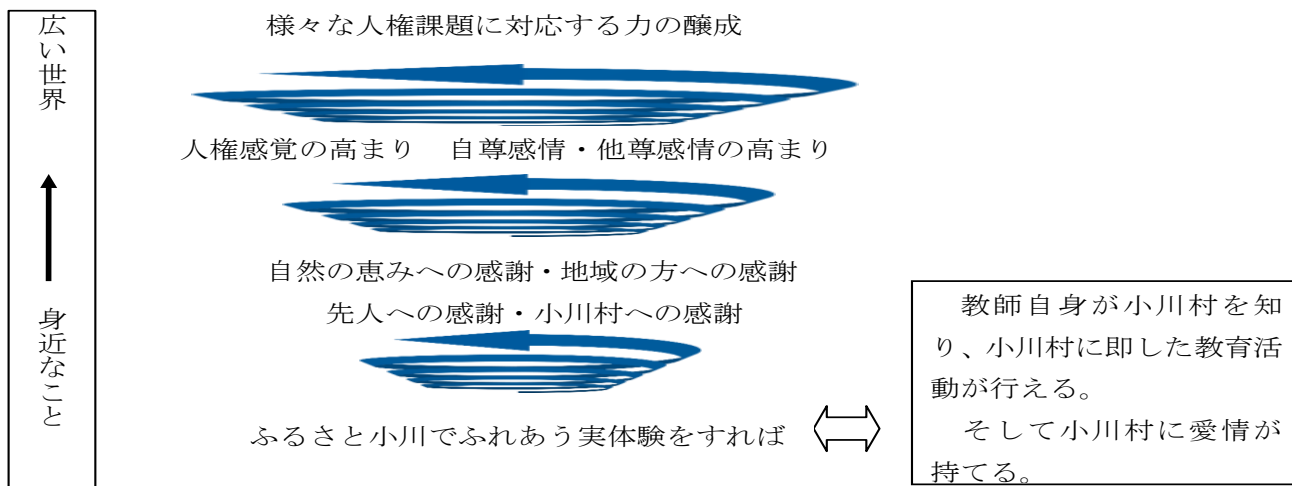
基本理念 『むら』に学び確かな知性と広い視野を身につけ、高い志にあふれる人づくり

小川小学校 学校教育目標 『こころもからだもすこやかにして自ら学ぶ子ども』

小川中学校 学校教育目標 『つよく やさしく 思慮深く』

人権教育 研究テーマ

ふるさと教育をベースにした人権教育 ～ふれあう「実体験」を通して～



○特色ある実践

小川に生きる私を意識した人権教育の推進

(1) 小川小学校

- ・お年寄りとの交流 (豊の間交流)
- ・小川保育園との交流
- ・サンリング (福祉施設) との交流

(2) 小川中学校

- ・サンリング交流
- ・薬師沢石張水路工整備作業
- ・お年寄り宅訪問奉仕活動

○「体験的な学習」に関する学習サイクルに位置づく活動になりうるものである。

①「体験すること」→②「話し合うこと」→③「反省すること」

→④「一般化すること」→⑤「適用すること」→①

体験的な学習における活動の振り返りに関する事例<小学校3年生：総合的学習>

(1) 単元名 「サンリング (小川村在宅福祉支援センター) のおじいちゃん・おばあちゃんと仲よくなるう」

(2) 課題と課題解決のための手立て

○ 日常の活動の場において、3学年の子どもたちは、体を動かす活動や作業的な活動、自分のアイディアを生かしながら体をつかって体験する活動に関心や意欲を持ち、友だちとも進んで関わり合おうとする姿が多く見られる。反面、話し合いの際に自分の意見を通そうとして言葉がきつくなってしまう、落ち着いて話し合いができず、思い通りにならないとふてくされて、けんかになってしまう等、相手の話を受け入れることができない姿も見られる。

○ お年寄りの方と交流する学習には、友だちの意見を認める場面、友だちのよいところから自分に活かせるようなことを発見する場面等が多く存在する。お年寄りの方は子どもたちが来るのを楽しみにし、どの子にも温かく関わってくださる。また、福祉支援センターで働く方も、子どもたちの努力や一生懸命な姿を認めてくださり、どうすれば上手くいかなど一緒に考え支えてくださる。お年寄りとの交流を核にした活動を行うことを通して、自分のよさに気づく、認められる喜びや人に喜んでもらえることの価値を感じる、友だちの言動を認めあったりすることの心地よさを感じる等、人権教育の側面から見て、多くの成果が期待できると考えた。

○ 活動は「体験的学習のサイクル」を基本として、1年を通して交流活動を積み重ねていく。1回の交流を行った後には、自分の姿や友だちの姿、お年寄りの反応等についての振り返りを行う。振り返った内容を基にして、次回の実施内容を計画し実施する。活動を積み重ねていくことで、かかわりあいながら活動するよさを味わうとともに、相手の考えや立場を尊重し自分との違いを受け入れて折り合いをつけ、自分や友だちのよさに目を向ける力を高めることができると考えた。

(3) 授業のねらい(本時の主眼)

12月の交流会に向けて準備をはじめようとする子どもが、これまでの交流の映像を見ることを通して、自分や友だちのよいところに気づき、どんな交流会にしたいか考えることができる。

(4) 授業における人権教育の視点

○お年寄りの状況や気持ちに寄り添って、交流内容を考えることができる。

<価値的・態度的側面>

○友だちの意見を尊重し、互いに認め合いながら学習に取り組むことができる。

<技能的側面>

(5) 実践から得られた効果

①授業での児童の姿と考察

- ・交流活動を積み重ねていることが、子どもたちの自信につながっていた。初めは、お年寄り「何を話すか」「何をしたらよいのか」と、とまどっていた子どもたちが、交流を繰り返すことによって、「今度は1

人で活動したい。」と計画できるようになってきた。自信は活動への見通しにつながり、お年寄りの様子や反応を見られる余裕をもつことにもつながった。

- ・多くの子どもたちが、前回の交流会の映像を見て、友だちのがんばっている姿や自分の活動の評価をすることができていた。自分の映像を見て「あー、やっぱり説明の声が小さかった。」と振り返り、「次回はもっと声を大きく出して説明したい。」と見通すことができたAさん。「Bさんは、お年寄りと進んで話をしていた。」と友だちのよい姿に気づき、「次回は、自分も大きな声で説明できるようにしたい。マジックをやりたい。」と計画ができたCさん。発言や学習カードに記載する言葉の中には次の活動への意欲が感じ取れた。
- ・お年寄りが楽しんでいることを「笑顔から分かる」と映像から感じた子どもたちは、お年寄りが笑顔になる理由を「自分たちも楽しんでやっている」ということに気がついた。喜びや楽しさを共有することの価値は日常生活の中での好ましい人間関係につながっていくものと思われる。

②取組後に見られるようになった児童の姿

- ・サンリングでお年寄りにあたたかく迎えていただいた子どもたちは、何かをやる際、友だちの意見に左右されず、良いと思ったことは、自分一人でも行動しようとする姿が見られるようになってきた。また、自分の意見がとおらないとふてくされてしまうなどの姿を見せていた児童も、相手の話に耳を傾けることができるようになり、独りよがりではなく、相手はどう思うのかということを考えられるようになってきた。



地域に根ざした活動を繰り返すことにより人権感覚を高めていった事例

<中学校1年生：総合的な学習の時間>

(1) 単元名 小川に生きる私

(2) 本単元の持つ価値

小川中学校では、村にある国の登録有形文化財である薬師沢石張水路工の整備活動に取り組んでいる。薬師沢石張水路工の作業では、村の方と作業を共にする中で、人々の知恵や懸命に働く姿から、村を大切にしたいという思いを感じ取ることができた。これらの活動を振り返る中で、村の方々が中学生に寄せる期待を知る機会を設け、地域のために自分たちは何ができるかを考えさせていきたい。そうすることで地域とのつながりを実感し、村に生きる自分の在り方を見つめたり、仲間と活動することのよさを味わったりしてほしいと願った。

生徒たちは、困っている仲間がいれば、進んで声を掛けて助け合うことができる。行事の準備、計画において、仲間のよい面を認め合い、高めあっていく姿が多く見られる。このことは保育園から今に至るまで生活するメンバーが変わらず、深い人間関係を築いてきたからこそ見られるよい面である。一方、このことで課題とする面も生じている。自分の思いを十分伝えることなく今まで作り上げた人間関係を守りつつ生活をするところがある。相手の言葉を聞こうとせず、顔色を伺って生活しているようなところも時々感じられる。さらに、学習の場が限られた空間であったため、人との関わり方を学ぶ機会が少なかったこともその原因であると考えられる。

このような子どもたちにとって、『一日小川』で様々な人と関わることは、人間関係を広げ、コミュニケーション能力を高め、活動の中で友だちの新しい発見をするよい機会であると考えた。また、村での奉仕活動やお年寄り宅訪問をすることで、村に対する自分たちのかかわりの良さを実感でき、村の方から認められたり、生徒自身でお互いの活動のよさを認め合ったりすることができる機会ともなるであろう。そして、こうした活動の積み重ねによって、生徒の自己有用感を更に高めることができるのではないかと考えた。

(3) 本時の主眼

これまで行ってきた一日小川の活動を振り返り、来年度の活動に向けて希望を持ち始めた生徒たちが、ビデオレターに映る村の方々からのメッセージからお年寄り宅訪問を思い出すとともに「一日小川」の活動から教えられた内容について考えることを通して、村の方々への感謝の気持ちを持ったり、村民の一人として自分自身の存在の価値に気づいたりすることができる。

(4) 人権教育の視点

- ①進んで自分の考えや経験を伝えたり、仲間の考えに共感したりすることができる

＜技能的側面＞

- ②村を作ってきた人たちへの感謝の気持ちを持ち、自分も一員として行動していく意欲を持つことができる ＜価値的・態度的側面＞



(5) 実践から得られた効果

①グループ活動による個の感想の深化

- ・個によるシート記入と、実際の発表とが違っていた。みんなの意見に思いをよせた結果、より深まった感想につながったと考えられる。
- ・キーワードをグループで考えさせたことによって、自分の思いを具現化することができた。

②グループ学習、全体での発表によって深まりを見せた生徒の姿

- ・「みんなで感じ、意見がたくさん出て思ったのは、この2つ（薬師沢石張水路工草刈・お年寄り宅訪問活動）をやったからだと思う。」
- ・『小川村の貢献者』ってあるけど、俺たちが大人になった時には、『貢献者』にならなきゃいけない。俺たちが頑張っていかなきゃいけないと思った」と、数十年先の自分の将来に渡ってまでの展望を考えることができた。

③授業実施後の生徒意識・行動の変化

- ・村の人に会ったら、大きな声であいさつをする。
- ・家での手伝いをする。
- ・村の行事に積極的に参加をする。
- ・笑顔、明るいあいさつを心がける。
- ・感謝の気持ちを行動で表す。
- ・親を大切にしたい。



○身近な「実体験」があったことで、友達の見解や考えを自分のこととしても通して、より深く自分の「実体験」を振り返り、今後の行動においても想起することができた。

○ふるさとを大事にすることは、自分を大事にすることであり、仲間を大事にすることである。またその存在には保護者をはじめ多くの方々の存在があることにまで、生徒は迫ろうとしていた。

○実際の活動に反映できているかの評価はできないものの、村への感謝・親への感謝・先人への感謝の気持ちが持っていることは大きな成果である。

◎この号に掲載した小川村立小川小学校・中学校及び木曾町立開田中学校の実践は、文部科学省のホームページにも紹介されます。また、本年5月より各地区において順次行われる、学校人権教育研修会等において、三校の取組をまとめた「実践事例パンフレット」を各校にお配りします。どうぞご活用ください。

平成25・26年度文部科学省人権教育研究指定



人権尊重の視点に立った学校づくり



一木曾町立開田中学校の取組

○人権教育にかかわる取組の全体概要

【研究テーマ】

「自己肯定感を高め、他者受容する力を伸ばすための指導のあり方」

【研究の重点】

- 互いの考えを知り、認め、高め合う学習活動
- 授業や活動の終わりに振り返りとシェアリング(分かち合い)の位置付け
- 様々な人の生き方や考え方に触れる地域学習や体験学習
- 相手を思いやった自己表現をするためのスキルの向上

○特色ある実践事例の内容

1 研究内容

○互いの考えを知り、認め、高め合う学習活動

日常の学習活動の中では、お互いの考えを発表し合うことで、自分にはなかった発想を知ったり、自分の考えと重ね合わせることで考えを深めたりすることができる。友だちに自分の考えを認めてもらったり、共感し合って学習を進めたりすることは、自己肯定感や他者を受容する力も高めていくことができる。そこで、「互いの考えを知り、認め、高め合う学習活動」を意図的に取り入れることをどの教科・領域の学習においても大事にして取組んできている。

○授業や活動の終わりの振り返りとシェアリング

授業や活動の終わりに「振り返り＝言語化」とそれを発表し合う「シェアリング(分かち合い)＝共有化」を行うことで、自己開示ができ、相手を大切に「傾聴スキル」も養われる。友だちの「シェアリング」から自分が大事にされていることや自分では気づかなかった自分の良さに気づいた子どもたちは、更に相手を大事にしようと思えるようになる。日々の授業の終末で、授業と人権教育の視点を与えた自己評価・他者評価を書き、それを発表し合うことは自己肯定感の高まりにつながると考えられる。そこで、授業や体験学習などの後、振り返りとシェアリングを大事に考えて行っている。

○様々な人々の生き方や考え方に触れる地域学習や体験学習

他者受容する力を伸ばすためには、共感性を高める必要がある。そのためにはいろいろな大人や異年齢の子どもたちとふれあい、いろいろな人間の考え方を取り入れていくことが必要である。そこでの活動を成し遂げることにより成功感や達成感を得ることもできる。このように地域学習は、他者との関わりの中で共感性や自己肯定感を育むことができると考えられる。地域の理解を深めるためにも、地域の中に出て行き地域の方と共に学習を積む体験を大事にしていきたいと考えている。

○相手を思いやった自己表現をするためのスキルの向上

日々の授業や生活の中では、「聞き方」「話し方」「相手の発言を受けての自己主張の仕方」などの具体的な行動方法(コミュニケーションスキル)を指導している。また「相手の気持ちや周りの状況を考えずに、自分の気持ちをぶつけてしまいがちな生徒」や「Q-Uで学校生活満足群に入っていない生徒」が少なからず存在している実態から、人間関係づくりの授業や構成的グループエンカウンターを行い「傾聴スキル」「リフレーミング」などのスキルを身につけ、互いを認め合う雰囲気を作る必要性があ

ると考えている。心が開け活発に子どもたちの主張がなされ、それが「お互いに折り合いをつける」段階になることを目指し、ソーシャルスキル学習や構成的グループエンカウンターに取り組んでいきたいと考えている。

○実践事例の実績、実施による効果

1 互いの考え方を知り、認め、高め合う学習活動に関する事例〈2年生 学活〉

(1) 題材名 「みんなが楽しい登山にするために」(6月26日)

(2) 授業のねらい

御嶽登山の学習や準備を始めた生徒たちが、登山計画に対する自分のアイデアを出し合う場面で、実際の行程の中にそれらを組み入れるかを話し合い、検討することを通して、自分の考えを積極的に伝えたり、友の考えをできるだけ取り入れようと共感的に受け止めたり折り合いをつけたりしようと思えることができる。

(3) 授業における人権教育の視点

○自分の考えを恥ずかしながら進んで伝えることができる。

○友だちから出された難題に対しても、実現できるような方法や工夫を考え、肯定的に考え、折り合いをつけていくことができる。

(4) 実践から得られた効果

〈授業での生徒の姿と考察〉

授業の一場面

P生：「御嶽の頂上でココアを飲んだり、アイスを作ったりしよう」

B生：「持っていく荷物が増えて重くない？」

C生：「卵割れたらいけないよね」

D生：「割れたら最悪だ」

C生：「作るのにどのくらい時間がかかるのかな？」

B生：「そうだよ。そこが問題だよ」

E生：「アイスの材料には雪があるよ」

F生：「ココアを飲むと元気がでるね」

普段なら、「何を言っているの」とP生の意見はクラスの仲間から流されてしまいがちなものが、この提案は多くの仲間から肯定的に受けとめられた。この時間、P生の自己肯定感が高まり、被侵害感も減少したと考えられる。

〈この取り組み後に見られるようになった2年生の姿〉

○9月「数学」：P生は、今までは自分のやり方にこだわり、人の説明を聞こうとする姿勢があまりなかったが、「Aさんの説明を聞いてとても簡単なやり方があることがわかった」と振り返り、クラス全体に発表した。Q生は、「みんなの説明を聞いていろいろなやり方があることがわかった」と振り返った。

○10月「音楽」：K生は合唱練習を頑張る。N生は音楽会の反省に「クラスのみんなと協力できた」と書く。

様々な人々の生き方や考え方に触れた地域学習や体験学習の事例 〈2年生 総合的な学習の時間〉

(1) 題材名「姫獅子舞に挑戦しよう」(11月6日)

(2) 授業のねらい

開田高原の姫獅子舞の学習に対する願いを持った生徒達が、実際に姫獅子舞を鑑賞したり、地域の伝統を伝承する方たち(開田高原民舞保存会=ゆるり会)の想いを聞いたりすることを通して、地域の伝統を継承する人たちの想いの大切さを感じとることができる。

(3) 授業における人権教育の視点

- 自分や友だちの取組みの良さに気付き、進んでそれを伝えることができる。
- 地域の方たちの想いや願いを知ることで、意欲的に取組んでいこうとする力を育むことができる。
- 地域の人々の様々な想いや考え方を受け入れながら、自分たちの取組みを振り返ることができる。

(4) 指導上の留意点

- 自信を持って考えを伝えられるよう、昨年度までの振り返りや今年度の取組みに対する意識付けを前時までに十分に行い、考えをワークシートにまとめておくようにする。
- ゆるり会の代表者のお話に焦点を絞り、開田高原の伝統に対する想いをビデオに撮影して編集してポイントを絞って伝える。
- ゆるり会の方たちと交流したことや姫獅子舞の内容だけでなく、自分や友だちの気持ちや様子に視点が向くよう、話し合いの中で出た大事な発言や姿を黒板に残していくようにする。

〈授業での生徒の姿と考察〉

ゆるり会の方々の気持ちを知る事ができたので、これからその気持ちを考えながら踊ったり、触れ合ったりしたい。姫獅子舞のストーリーで意外な事がたくさんあったので、練習する時は意味をしっかりと理解してやりたい。みんな手が挙がっていたから良かった。

ゆるり会のこと、姫獅子舞のことをいろいろクラスで聞いて、今まで以上に頑張っつけていこうと思った。クラスみんながしっかりと発表することができたのでよかった。これから2年生とゆるり会の方たちで全力で練習する。

姫獅子舞がビデオで見たときよりもかなり迫力があつたので、自分たちも、見てる人に「迫力があるね」と言われるように練習していきたい。

実際に姫獅子舞を鑑賞したり、ゆるり会の方の想いをビデオで視聴したり、直接質問したりしたことは、地域の方たちの想いを感じとることにつながったと思われる。また、地域の方たちの想いや願いを知ることで、意欲的に取組んでいこうとする力を育むことができたと思われるし、授業における自分たちの取組(挙手や発言の仕方)の良さにも気付いている。



〈取組後に見られるようになった生徒の姿〉

教職員の観察から、学習に対して集中して前向きに取組んだり、質問を積極的に出したりする姿が多く見られるようになったと感じている。生徒会引き継ぎを前にして教室訪問でも、緊張しながらも堂々と自分の考えを発表する姿には自信や力強さを感じられる。3月の郷土芸能発表会に向けて学級全体の団結力を高め、学校全体をこれからは自分たちで引っ張って行こうとする雰囲気がクラスにできつつあると考える。

「今話しておかないと」

ハンセン病療養所長野県訪問交流事業での県人会の方(Aさん)のお話

入所して58年。Aさんは、これまでの思いを初めてお話ししてくださいました。県人会長さんも「そんなこと初めて言うね。」と、驚いていました。長い間閉じ込めてきた思いを語るAさんの心の奥底にあるものを感じながらの訪問となりました。



病気になって悲しかったこと辛かったこと、そんなことを話してほしいと言われたので、お話しします。病気になって幸せだと思ったこともうれしいと思っただけでもありません。

私は昭和31年5月2日に25歳でここへ来ました。

昭和20年の4月、軍需工場へ行っていました。秋ごろから右の足が痛くなって膝も曲がらなくなって、工場をやめました。手も伸びなくなってしまったのですが、その後足も手も治って他県の工場に口減らしのために行きました。昭和23年の暮れから正月にかけてまた病気になり、工場に戻れなくなりました。18歳でした。手は痛いし、顔も腫れ上がって、お岩さんみたいになった。同級生は、みんなきれいになったのに、なんで私だけこんな顔になってしまったのかと悲しかった。

(県人会長さん・・・「初めて言うね。あんたね。」Aさん・・・「そうよ、今日言わないと。私ももういい年だから、今日聞いてもらわないと来年、再来年に聞いてもらえるかわからない。本に書いてあることなら読んでもらえばいいけど、私の悔しかった思いは書いてないから。ちょっと口べただけ聞いてください。」と言って、話を続けられました。)

お医者さんに行くことになったけど、昼間は来ないで夜になって来るように言われたの。伝染病だからみともないからって。50何年前のことだから、提灯で母と一緒に歩いて行ったの。そうしたら、母が車道から転がって落ちてしまった。起きてきたからよかったものの、今度こうなったらどうしよう、この顔では助けも呼べないと思ってそれっきりお医者さんに行くのはやめてしまったの。

それから、こういうこともあったの。田舎はこたつにみんなで入るんだけど、私のこたつからみんないなくなったの。家庭内差別でしょ。ひとりっきりになってしまった。18歳の時です。悲しいんだか悔しいんだかそんな気持ちでした。1日寝てたらネコが来るでしょ。そうしたら、うつるからって、ネコまで連れてっちゃうの。

朝、みそ汁ぐらいは私が作ろうと思って、大根を切ろうとすると手が今よりはいいけど利かないの。お母さんはかわいそうにと思って、やってくれたんだと思うけど、私はひがんじゃったの。そのまま怒って寝ちゃったの。健全な体に健全な心が宿るって言うけれども、私は心が病気になっちゃたのよね。

それからいっそ死のうとも考えた。それで、一度、いったい私がこの家からどの位いなくなったら、親は心配するかと思ってトイレに行って、ただただ時間を過ごしてみたの。そこで、「やっぱり、うまく死ねればいいんだけど、もし死ねなかったら親も辛いし悲しいんだろうし私も辛い。それから世間の笑いものになるし。」と、思い直してそれで今日まで生きてきたの。

お母さんに盾突いたこともあるの。「何で生んでくれたんだ。」「生んでくれなきゃよかったのに。」って。そうしたらお母さんが、「お前がお腹の中で生まれたい生まれたいって騒いだから生んでやったよ。だけど生んだ時はちゃんときれいに生んだよ。」って言うの。これには返す言葉がなかった。

母が亡くなって、父はその5年後に亡くなった。両親のお葬式には行けなかったの。お墓に入れてから知ったの。それを知ったら、気が抜けてしまった。そのお葬式の葬儀に使った旗を兄が送ってくれた。雨が当たって汚れてしまったけど、年をとれば縁起がいいものだとして送ってくれた。今もビニールに入れて大事にとってあるの。

兄が亡くなった時は、電話があったの。だから、飯田線の夜行で行って、11時ころに着いた。駅員さんが心配して、「だれか迎えに来てくれるの?」と聞いてくれたの。でも3人の兄だれも迎えに来てなかった。だから、姉のところへ電話して、そこの長男が迎えに来てくれて、姉の家に行ったの。でも、兄弟姉妹から「近所の人があるから、会いに来るなら裏から来い」と言われた。頭にきてね、行かなかった。そしたら、姪っ子たちが「おばちゃん来てよ。会ってやってよ。」と言ってきた。だから、「そんなに会わせなかったらここに連れて来なさい。」と、言っちゃったの。

兄のお葬式の後、妹たちに「私が20年ぶりに来ているのに私に会いに来られないわけないでしょ。」って怒ったら、妹たちが来て頭を下げたの。でもおさまらないのよね。そこで、「悲しいからお金を燃やしちゃった。だから帰れない。(兄に会えなかったことを)主人に何ていうの。だから、あなたたちの家に順に泊まるから。」って脅迫したの。「いくら(燃やしたの?)」って言うから「十万円」って。姉が私のうそに口裏合わせてくれて。そうしたら、妹たちは「今は持ち合わせないから後で」と言って、送ってきたの。でも2人でうそを言ったから半分姉に送ったの。

その時、「ここまで来て、なんでお墓に来ないんだ。意気地無しだ。」と両親に言われているようで、姉と義理の兄が留守の時に、何としても思ってお墓のある山に行ったの。そうしたら、昔とはずいぶん違っていてなかなか見つからないの。それで山から降りてきて、でももういっぺんと思って、脇道に入ったら見つかったの。そこで、嬉しいんだけどまた怒っちゃったの。兄さんの墓にはお花がたくさんあって、父と母と3歳で死んだ兄弟のところにはお花がないの。だから、兄の所から花を持ってきて供えたの。それから、兄のところにはお供えがあったから頭にきて、蹴とばしちゃったの。まだ気が済まないから塔婆も引っこ抜いて投げちゃったの。悔しくて、悲しくて。

2時半になり、日が傾いてきて、こうしちゃいられないから、お墓の土を持って帰ってきたの。それで、(療養所の)納骨堂の私だけが分かるところに置いたの。納骨堂が工事の時はその土を持ってきて、今度は柱のところに置いて、少しだけお財布に包んで入れてあるの。毎日毎日持って歩いているの。

兄嫁が、兄が死んだのは知らせてもいいけど来いとは言わなかったっていうの。それでカッとなって、お金を取ったり返したりになったりお墓の話になっちゃったりしたの。腹が立ってね。20年たった今になってもこの話は主人には言えないよ。

(2014.10.28)



◎長野県では、「ハンセン病療養所訪問交流事業」を実施しています。

ハンセン病療養所を訪問し、入所者の方が過ごされてきた療養所での生活などを知ることで、ハンセン病問題について正しい理解を深め、偏見・差別の解消を図ることを目的としています。

来年度もこの事業は予定しています。入所者の平均年齢は80歳を越え、お話をお聞きすることも難しくなっています。人権教育は、当事者に学ぶところから始まります。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

(人権男女共同参画課担当事業・県のホームページをご覧ください)

人権意識の高揚を目指すポスター及び作文の審査結果

【応募状況・審査結果】

今年度、ポスターは 622 点、作文は 59 点の応募がありました。小、中、高等学校別の応募状況、入選者一覧は、下記のとおりです。ご応募いただいた学校、児童生徒の皆さんありがとうございました。

なお、中学生の作文については、長野地方法務局主催・長野県教育委員会共催で実施した「全国中学生人権作文コンテスト長野県大会」において、県内 186 の中学校から 17, 270 編(平成 25 年度 15, 396 編)の応募があり、下諏訪町立下諏訪社中学校 2 年の小河原康志さんの「ちがっていい」が教育委員会賞に選ばれました。



優秀賞 大町市立仁科台中学校
1 年 飯沢 倫子さん



最優秀賞 中野市立日野小学校
2 年 中山 友里菜さん

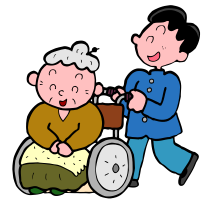


優秀賞 須坂市立墨坂中学校
3 年 山岸 大地さん

【応募点数】

() 25 年度応募数

校種	小学校	中学校	高等学校	合計
ポスター	529 (449)	73 (50)	20 (15)	622 (514)
作文	59 (55)	—	—	59 (55)



【入選者一覧】

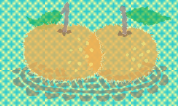
賞	ポスターの部	作文の部
最優秀賞	中山 友里菜さん (中野市立日野小学校 2 年)	土屋 楓さん (中野市立日野小学校 5 年)
優秀賞	飯沢 倫子さん (大町市立仁科台中学校 1 年)	下川 グスタボさん(安曇野市立明北小学校 6 年)
	山岸 大地さん☆ (須坂市立墨坂中学校 3 年)	高田 亜衣香さん (千曲市立植生小学校 6 年)
優良賞	手塚 柚希さん (安曇野市立豊科南小学校 6 年)	矢口 なみさん (安曇野市立明北小学校 4 年)
	長谷川真由さん (南箕輪村立南箕輪中学校 2 年)	池田 望未さん (松川町立松川中央小学校 5 年)
	神谷 果奈さん (穂高商業高校 1 年)	南澤 知沙希さん (大町市立八坂小学校 6 年)
奨励賞	竹内 和音さん (上田市立川辺小学校 1 年)	黒岩 愛加さん (長野市立古里小学校 2 年)
	大原 麻椰さん (上田市立神科小学校 3 年)	池田 蓮さん (中野市立日野小学校 3 年)
	土屋 奏空さん (中野市立日野小学校 3 年)	小林 拓翔さん (中野市立日野小学校 5 年)
	坂井 里咲さん (松川町立松川中央小学校 5 年)	
	古瀬 唯美音さん (上田市立川西小学校 6 年)	
	戸塚 奈々さん (小海町北相木村南相木村中学校組合立小海中学校 1 年)	
	伊藤 愛唯さん (大町市立仁科台中学校 1 年)	
	濱嶋真也子さん (南箕輪村立南箕輪中学校 2 年)	
	二木 理沙さん (豊科高校 1 年)	
学校賞	長野市立松代小学校 松川町立松川中央小学校 南箕輪村立南箕輪中学校	

☆山岸大地さんの作品は、「いじめ防止啓発賞」として、相談電話のポスターに使用します。

—平成26年度「長野県人権意識の高揚をめざす作文」最優秀賞の作品を紹介しませ—

「改めて草つきあなの勉強をして」

中野市立日野小学校5年
土屋 楓さん



改めて草つきあなの勉強をして

日野小 5年 土屋 楓

私は改めて草つきあなの勉強をして、
もしも九十年ぐらい前にタイムスリッ
プをしたら、差別を止められるかなあと
思いました。

私だったら差別をしている友達や大
人が少なかったら言えたと思います。で
も人数が多かったらだまって見ていた
と思います。

理由はもし「やってはいけないよ」と
言えたとしても、差別していたクラスの
友達が私を差別するかもしれないと思
うとこわくなるからです。

差別はいけない。差別をなくしたい。
そう思っているけど、今度は私が差別され
るかもというこわさで足がすくみます。
頭では分かっているけど口には出せない
のは見ているだけでつらいです。

でも差別はいけないことなので、私は
足がすくんだって差別されたって最後
には言うようにしようとお話を読
んで思いました。

私にもつらくて苦しい思い出があり
ます。私は友達関係でなやみました。だ
れにも言えなくて、心のためにためて
しばらく口を開けなくなりです。開けよ
うとしているのに口に糸が結ばれたよ
うにかたくて開きません。のどにつまっ
た小石を全部はきだしたいのにはきだ
せません。つらい思いをすると心にきず
が深くつきます。ぬこうとした矢もぬけ
ません。でも、やさしく声をかけてくれ
る人が私のまわりにはたくさんいまし
た。それを知ったとたん、火がついたよ
うに心がポツとあたたかくなりました。
うれしくてうれしくてたまらなく喜び
ました。今はもうなやんでいないけれ
ど、今度は私が助ける番だと思いまし

た。

もし、よしお君とこうた君の前に立っ
て、「いけないよ」と言える人がいたら、
少しでもクラスは変わっていたと思
います。

だから私は、差別をなくすためには、
男女関係なく遊んだり、なやんだりして
いる人の話を聞くことから始めていき
たいと思います。

そして差別はゆるさないという気持
ちを持ち続けたいです。



—草つき穴—

よしお君やこうた君のことが綴られた
「草つき穴」のお話は、「人権教育リーフ
レット～いまここから自分から～1」(H24長
野県教育委員会作成)に全文掲載しています。

隠れたカリキュラムについて考える

一人権が大切にされた環境で学ぶ



学校や学級など子どもたちが学習をする場が、人権を尊重される雰囲気や環境でなければ、教育活動は十分な効果をあげることはできません。子どもたちは、人権について知識や技能を学ぶだけでなく、人権が大切にされた雰囲気や環境のなかで学習し、その心地よさを体験することによって、人権の大切さを実感するようになります。このように、私たちは、子どもたちが「隠れたカリキュラム」(教育する側が教えようと意図する・しないに関係なく、学習者がその内容や方法以外に、場の雰囲気や環境から多くのことを学びとること)のなかで学んでいるということをふまえて教育をすすめていくことが大切です。

【参考】 隠れたカリキュラムの例

「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには、「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分である。実際に、「いじめ」を許さない雰囲気が浸透する学校・学級で生活することを通じて、児童生徒ははじめて「いじめ」を許さない人権感覚を身に付けることができるのである。だからこそ、教職員一体となつての組織づくり、場の雰囲気づくりが重要である。

～人権教育の指導方法の在り方について〈第三次とりまとめ〉より～

先生方、学校でこんな点を意識されていますか？

○環境

- その日の欠席・早退・遅刻の子どもの名前を忘れずに教室の黒板に書かれている。
- 欠席している子どもの机やロッカーが勝手に使われていない。
- 長期欠席者の机の中にプリントが貯まっていない。(プリント等がきちんと届けられている。)
- 個人の目標や作品がクラスの数分揃っている。
- 係などの所属に全員の名前がある。
- 児童生徒が提出した作品に先生のコメントがきちんと書かれている。
- 児童生徒が作った作品や教室の掲示物がきちんと張られていて、破れや破損など見られない。
- 使用したクラスのテープやマジックが本来あるべき所に戻されている。
- 教室の中にゴミが散乱していたり、鞆などが乱雑に散らかったりしていない。
- クラスにある植物や生き物が大切にされている。
- 登下校時、上履きや下履きがあるべき所に置かれている。

○授業

- 子どもたちの名前が大切にされ、授業中などの呼名が子どもによって違わない。
- 児童生徒が全員揃ってから授業が始められている。
- 欠席している子どもにもプリント等がきちんと配布されている。
- 発言している子どもだけで授業が進められていない。
- 誤った応答をしたり、思い違いをしている子どもに対してフォローしたりするよう心がけている。

○その他

- 先生から子どもたちに率先して挨拶している。
- 子ども同士の傷つける言葉や、冷やかしの言動を見逃さない。
- 忘れ物をした子どもに対して良く理由を聞き、配慮している。
- 気になる子どもがいた場合、積極的に声がけをしている。